

ナリコーグループ環境計画

CO₂削減中期（2030年度）目標

CO₂削減長期（2050年度）目標



人と心、地域をつなぐ

NRKHD

NRK



ナリコーファーム



ナリコーファーム 沖縄

ナリコーグループは持続可能な社会の実現に向け、 脱炭素化に取り組めます。

＜2030年度中期目標＞

エネルギー起源によるCO₂（Scope 1 ※1+Scope 2）の排出量を2020年度比で
40%削減する（※1非エネルギー起源における廃棄物焼却由来によるCO₂を除く）

＜2050年度長期目標＞

ナリコーグループが排出するCO₂のカーボンニュートラルを目指す

＜中期目標に対する削減方法＞

- ・ 電力を再生可能エネルギー由来の電力へ切替
- ・ 保有車両の30%をEV車化、HV車化
- ・ 各事業所のLED照明器具の更新
- ・ 各事業所の空調を高効率空調へ更新



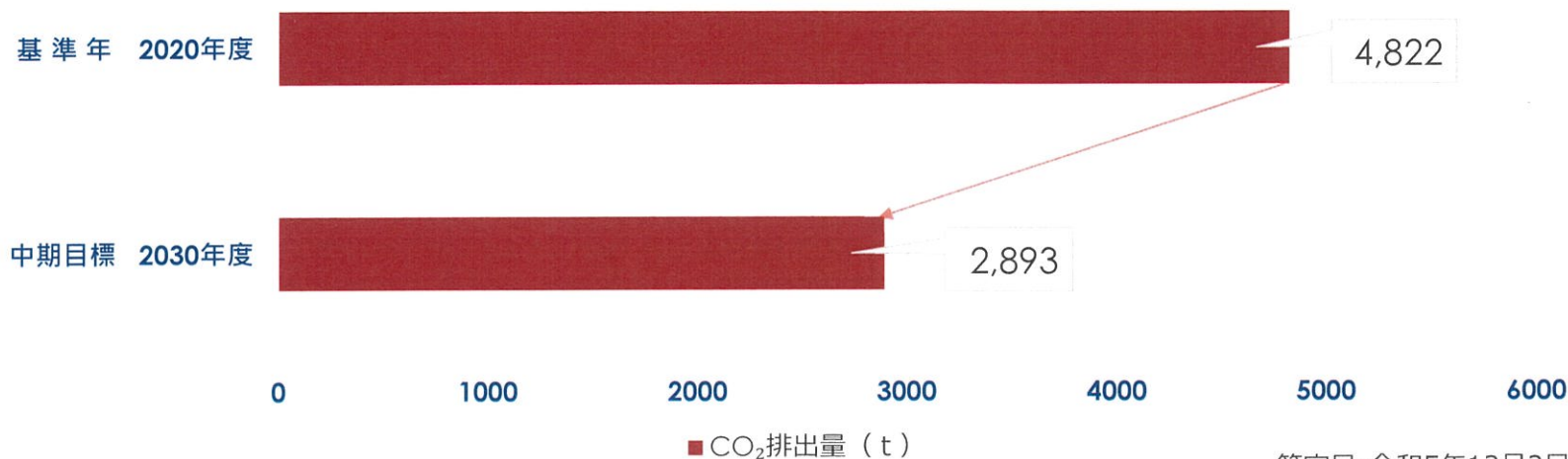
エネルギー起源によるCO₂排出量削減目標

◆ Scope 1 ※1+Scope 2 によるCO₂排出量の削減◆

(※1 非エネルギー起源：廃棄物の焼却由来によるCO₂を除く)

(※1 非エネルギー起源：ドライアイス使用によるCO₂を含む)

エネルギー起源によるCO₂排出量40%削減



策定日:令和5年12月2日

ナリコーグループサステナブルビジョン

ナリコーグループはSDGs活動として「地球環境・地域環境の保全」に努め、地球温暖化対策として温室効果ガス削減に取り組みます。

ナリコー早生桐®事業の取り組み

◆早生桐は早生樹の一種

一般的な桐よりも成長が早く、二酸化炭素（CO₂）の吸収能力が高いため、地球温暖化対策や持続可能な社会の実現に貢献する植物として、近年注目を集めています。

スギやヒノキは、成木までに40～50年もの時間を要します。対して、早生桐は、植樹から5～6年で成木となります。また、早生桐のCO₂吸収能力は、スギやヒノキに比べて数倍～数十倍/本/年です。

◆ナリコー早生桐®国内外で商標登録されています

◆メリクロン技術による苗の研究・開発・生産を行っています

◆成蹊大学と産学共同で、森林がCO₂を吸収する仕組みの研究を行っています

ナリコークリーンセンター第四工場建設計画

ナリコーでは新たな廃棄物処理施設を建設する予定です。新施設では近隣の農家さんと連携しながら、併設予定の農業用施設に処理施設より排出される廃熱と発電される電気を供給し新たな総合農業用施設の創設にチャレンジします。

◆ナリコークリーンセンター第四工場廃熱利用

農業用施設ではナリコークリーンセンター第四工場の廃熱等を利用することにより、燃油に依存しない加温システムを導入することによって、施設の省エネルギー対策となり、温室効果ガス削減に貢献します。

◆農地土壌炭素吸収源対策

堆肥や緑肥等の有機物の施用やバイオ炭の施用等による土づくりを行うことにより、農地土壌による炭素貯留量が増加します。農地・草地土壌への炭素貯留は、本来ならば分解され大気中に放出されるはずであった炭素を土壌中に閉じ込める行為としてとらえられ、森林等とともに温室効果ガス吸収源のひとつとして国際的に認められています。

出所：農林水産省農業局農業環境対策課